

各水試発トピックス

北洋研究シンポジウムを開催しました

平成24年12月22日（土）10時～16時30分に、北海道大学学術交流会館 1階 小講堂にて、2012年度水産海洋地域研究集会 第43回北洋研究シンポジウム「北海道の水産の魅力と将来に向けて」を、国立大学法人北海道大学大学院水産科学研究院、水産海洋学会、独立行政法人水産総合研究センター及び道総研水産研究本部が共催で開催しました。

北海道大学大学院水産科学研究院と水産総合研究センター、北海道大学と北海道立総合研究機構は、それぞれ包括連携協定を締結していることから、3機関が連携し、我が国有数の水産王国である北海道を取り巻く海洋環境や漁業の今を概観し、モニタリングや魚食の大切さ、さらには水産が秘める可能性にも触れて、北海道における水産の将来を考えることを開催趣旨としました。

当日は研究関係者や一般参加者を含め約120名が参加しました。

各講演者とも最新の研究成果や水産業を取り巻く情勢等を、一般の方にも分かり易い内容とするよう心がけられ、特に水産庁の上田氏はホワイトボードに手書きして講演するなど、魚食の大切さについて熱弁を振るっていました。

またパネルディスカッションでは道ぎょれん、コープさっぽろ、小樽市の漁業者など各方面の現場の方々にも参加いただき、北海道の水産業について議論がなされました。

各セッションでは一般参加者からも質問・コメントが上げられるなど、盛況のうちに終わることができました。

（金田友紀 水産研究本部企画調整部）



写真1 開会の挨拶（桜井水産海洋学会会長）



写真2 講演者の発表の様子



写真3 パネルディスカッション



写真4 一般参加者からの質問